

NPO 法人アビリティクラブたすけあい

2022年11月1日号

vol.188

発行・責任者 豊泉惣子



通信

会員数 5,285 人 共済契約数 1,596 件 ACTつながるケア時間数・金額 2,501 時間 6,317,740 円 (8月末)

特集

ア ク ト

ACT設立30周年

30th

ANNIVERSARY



P2-3

私とACT

人とつながり 地域を変える!

ACT初代理事長 石毛 鏝子^{えいこ}さん

石毛鏝子さん（前列左から2人目）と、
町田・ワーカーズまちの縁がわ小山田桜台の皆さん。
地域の居場所「ほっとスペースさくらさくら」の前にて。

P4-5 私とACT

薦田美智子さん『NPO 法人格取得から、介護保険事業へ参画』

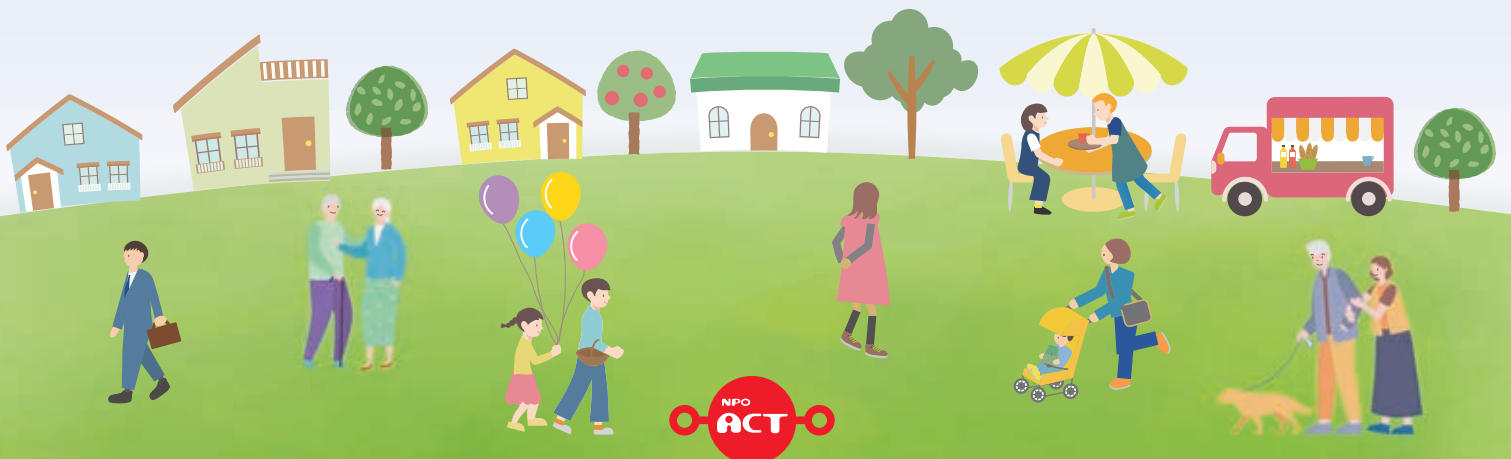
香丸眞理子さん『ワーカーズ・まちの縁がわによる「まちのほっとスペース構想」』

池口葉子さん『今だからこそACTは大事な組織』

豊泉惣子さん『ACTつながるケアがスタート!』

P6-7 ACTのあゆみ 2018-2022年度

P8 理事紹介 / ACT30周年記念行事のお知らせ





人とつながり 地域を変える!

ACTは30年間、大勢の人とのつながりで活動を広げてきました。

今回はリーダーとして活動を担ってきた歴代の理事長にお話を伺いました。先人たちがつくってきたしくみのもとに、これからのACTの発展につなげていきます。



初代理事長

いしげ えいこ
石毛 鏡子さん
1992—1997年度

ACTが生まれて30年!!

1992年9月21日ACTが設立されました。その頃石毛さんは飯田市の短期大学で社会福祉の大学教員をされていました。きっかけは、町田の生活クラブ生協の総代会で「専業主婦が対象になっているが、働く主婦も利用しやすいようにしてほしい」と意見をしたことでした。その発言から、ACTの理事長に推薦されるまでにつながっていったそうです。

ACTは、生活クラブ生協の共済活動を母体として、地域で生活する人が主体的に参加し協働して地域福祉の問題を解決しようと、「仮称・たすけあい生協」づくりから始まりました。年をとっても障がいを持っても、自立して生活できる地域社会になることを目指し、生活クラブ

組合員の枠を超えて、地域の人たちと手を取り合って歩んできました。発足当時から人(ワーカーズ)、もの(自助品)、お金(共済)を、会員になって循環させることが理念でした。

ACTに参加し活動をしたと思った理由を石毛さんは、その当時のACT通信に書いています。参加者の多くが女性であること、家事・介護といった福祉が主な活動であるACTは、女性の感性で福祉の質を確保し、人と人を繋いでいく地域の福祉サービスを発展させていくことが期待できる。しかもワーカーズ・コレクティブの組織形態は、自分たちが出資、利用、運営をし、自分たちで作り出していくという大きな可能性を秘めている。女性が地域で積み上げてきた経



験を地域の市民事業として活かしていく、これが実践を通じて大きく広がれば、もはや福祉の領域を超えて自治して「地域を変える」というところにつながっていく、このことに期待して活動をしていきたいと思ったそうです。

その後、1996年ドイツで介護保険制度が始まりました。町田市で「高齢社会対策検討委員会」で計画づくりに参画していた石毛さんはACT理事長を退任後、衆議院議員になり介護保険の策定に市民参画を入れるなど、これまでの経験を活かし国会の場で大きな力を発揮しました。

これからのACTに期待すること

「ACTは出会いの場、楽しくやっていると人は集まってくる。中間支援組織としての役割は、ファシリテート出来る人を育てる、仲間づくりの活動や人材育成は大事。まちづくり活動とは、つながりをつくることです。今はほとんどが核家族、気にかけてくれる人は大切、誰でも誘われると嬉しいし、ひそやかなおせっかいが必要です。」と石毛さん。大阪豊中市の見守りの実例として、安否確認で毎日窓に黄色い旗を



立てる、旗を目印にさりげなく気にしあう関係を構築していく、ちょっとした病院の付き添いなども気軽に言える関係性をつくることが必要、と話してくださいました。

石毛さんは現在84才になり、2年前に地域の仲間と「町田・ワークズまちの縁がわ小山田桜台」を立ち上げ、「ほっとスペースさくらくら」を開所しました。自宅から歩いて5分のところにあり、開所の日はお惣菜の販売からまちづくりのミーティングなど、いきいきと活動されています。

ACTの設立総会で、自分はACTの育ての親になると宣言したそうです。そして30年後、大勢の仲間とつながりをつくってきた人の重厚さと、培ってきた沢山の活動が財産となり、描いてきた地域をつくりました。さらに人のつながりを広げています。

ずっとACTを見続けてきた石毛さんから沢山のキーワードをいただきました。

今の世の中は、お年寄りに限らず1人世帯が増えています。ACTが目指してきた人のつながりや、ひそやかなおせっかいが益々大切になっています。最初の福祉の取り組みが、実は社会を変える大きな力になってきたこと、地域にはACTが必要だと確信しました。

1992年9月東京厚生年金会館で開催された設立総会。総勢170名が出席。正式名称「アビリティクラブたすけあい(通称ACT^{アクト})」も決定され、晴れやかにスタート。記念シンポジウム「地域が育ち、あなたをたすける」では、参加者一人ひとりが、自分たちのまちでは何ができるかを真剣に考えました。





NPO 法人格取得から、介護保険事業へ参画

こもだ みちこ
薦田 美智子さん
1998—2002年度



1992年ACT設立から2000年まで、任意団体として、20の自治体に24のたすけあいワーカーズが誕生しました。私たちは自立援助サービスとして、「自分でできることの援助はせず、自分でできることを大切に伸ばしていくこと」を重視する一方、利用者の立場に立ってニーズに対応するなど、その時の考え方や思いは持ち続けていきたいです。2000年から始まった介護保険制度について、私たちはどうするか決定していませんでした。そのため年一回開催の「たすけあいワーカーズ活動交流集会」で賛成・反対に分かれ、ディベートを開催することにしました。大勢の参加でカンカンガクガクと大論争になり、

みんなとても真剣で、今でも忘れられません。結果、ACT会員の利用者のことを考え、法人格を取得し介護保険サービスを加えていくことを、覚悟を持って決定しました。

独立型の居宅介護支援事業所は、都の指定事業者になるために法人格が不可欠ということで、NPOを取得しました。今でも印象に残る言葉は、都の介護保険課の方から、「(私達の)自立援助サービスのコーディネーターは、介護保険のケアマネージャーと同じ役割です。多くの人が試験を受けてください」と言われたことです。この言葉を励みに、受験者はみんなで勉強会を開いて頑張り、全員が合格することができました。

ワーカーズ・まちの縁がわによる 「まちのほっとスペース構想」

こうまる まりこ
香丸 真理子さん
2003—2008年度



まちの縁がわ構想のことはじめは、ACT会員の思いからでした。1992年ACTが設立し、同時に地域でACT会員によるたすけあいワーカーズが次々とできました。2000年には介護保険事業にも参入する等、メンバーは介護の専門職として第一線で活動してきましたが、高齢化によって定年退職の声がかかる様な次期を迎えていました。

それでも、現役を離れても地域で何か役に立ちたいという声がACTに寄せられ、2009年ACT会員に向けて「まだまだ現役のこの指とまれ!」という呼びかけで参加者を募りました。数は少数でしたが、思いのある練馬・板橋・西東京などのた

すけあいワーカーズメンバーが集まり、2年間話し合いを重ねました。経験を活かし、緩やかに働きながら地域で活動できることの結論が「居場所」づくりでした。誰でも気軽に立ち寄れるみんなの居場所は、ACTのまちづくりを具体化するものでした。

そして今、「誰もが安心して、地域で暮らし続けられる」ために構想した拠点が「まちのほっとスペース」です。「居場所」という共通のキーワードがあり、ACTと生活クラブ・東京が協働し各地域の「生活クラブ運動グループ地域協議会」と一緒に推進しています。まちの縁がわ東京は、2022年度現在14団体あります。



今だからこそ ACT は大事な組織

いけぐち ようこ
池口 葉子さん
2009—2018 年度



そもそもは、たまたま出会った生活クラブ生協の共同購入活動。もう一つの学校と言われるほど、様々な学びや出会い！そして活動が。そんなある時、ACT構想を提案されて地域で議論。その仲間の一人に声を掛けられ「えい！やってみよう」と、たすけあいワーカーズづくりに参加したのがACTとの関わりの始まりです。

その後の流れで引き受けたACT理事活動では、尊敬する先輩理事たちと共に地域の役割とは違うACTとしての視野に立つ様々な活動を学ぶことができました。

若輩4代目ACT理事長を担わせて頂いた時期は、内部的には居宅介護支援事業の独立、たすけ

あいワーカーズの連合化、地域ACT構想、そして新たな事業として「成年後見事業」の開始と、活動実践上での組織構造の変更へ、少なからず動いた時期です。外枠では、地域福祉の活動をACTだけではなく生活クラブ運動グループ皆で連携して推進していこうと「インクルーシブ事業連合」の創設がありました。これらすべての活動は、意志ある一つの思いを基に大勢の参加で精一杯の議論を重ね実践を可能にする組織の有効性、話合いが様々な意味で人を育ててくれる事を再認識した事でもあります。

大変な社会になってしまった今、だからこそACTは大事な組織と思う私です。



ACTつながるケアがスタート！

とよいずみふさこ
豊泉 惣子さん
2019 年度一



26年前、子育てに悩んでいた私は、会員どうしがたすけたりたすけられたり、一人二役のお互い様のしくみ『ACTつながるケア』（自立援助サービス）があると知り、何かできることがあるかもしれないと、ACT会員となりたすけあいワーカーズに参加しました。当初は資格もありませんでしたが、ケアを通して多くの方と出会い、その方の暮らしを支えるお手伝いをし、多くの事を学ばせていただきました。

今は介護保険・子育て・障がいの公的制度があります。しかし制度ではできないことが多く、暮らしを支える制度とは言えません。利用者の自己決定を尊重し、その人らしさを大切にするとつながるケアの必要性は今も変わりはありません。

ACTはたすけあいワーカーズを地域につくり、つながるケアをすすめてきましたが、人材不足の問題等で、継続が厳しくなっているたすけあいワーカーズがあります。また、まだたすけあいワーカーズのない地域もあります。

そこで新たな試みとして、ACT会員や生活クラブ生協・東京の組合員に向けて「自分の経験を生かし、困っている人のために役立ててみませんか」と都内全域から働く人を募集しました。そして今年6月『ACTが行なうACTつながるケア』がスタートしました。この事業で、福祉の仕事の楽しさややりがいを実感した人を増やし人材不足解消とともに、30年間ACTが大切にしてきたつながり合うことの価値を発信していきます。



ACTのあゆみ

2018～2022年度

2018年度

- 地域ACT
文京ACT設立(第1号)…①
- ワーカーズまちの縁がわ
世田谷区「みいの家」誕生…②
地域ACTまちづくり基金創設
- アビリティ共済制度改定
- 自立援助サービス料金改定
- 介護の日フォーラム
(2018・2019・2022年)開催…③
- 院内集会(毎年開催)…④
- アビリティ共済
ライフプラン講座スタート…⑤

文京ACT設立総会



①

ワーカーズまちの縁がわ
「みいの家」誕生



②

他団体と連携し
介護の日フォーラムを開催



③

2019年度

- 地域ACT
まちづくり委員会を設置
杉並ACT・小金井ACT設立
- たすけあいワーカーズ
八王子市「バードハウス」誕生…⑥
- ワーカーズまちの縁がわ
八王子市「すずのなる木」誕生
- いきいきサークルは94団体に…⑦

「介護の現場の
声を届けよう！」
院内集会



④

アビリティ共済
ライフプラン講座
あやとりにて



⑤

いきいきサークル
すこっぷサロン
親子でふれあい遊び



⑦

たすけあいワーカーズ
バードハウスの設立総会



⑥

2020年度

■地域ACT

国分寺ACT・町田ACT・武蔵野ACT・
世田谷ACT設立

■ワーカーズまちの縁がわ

町田市「さくらさくら」、府中市「テラツツア」、
杉並区「すてっぷ&すきっぷ」誕生

■コロナ禍により、まちの縁がわに ACTコミュニティ活動応援基金より 緊急助成（寄付募集）

■片付け・葬祭紹介の提携を始める

■介護保険制度参画 20年の 検証作業チームがスタート…⑧

■アビリティ共済動画を作成…⑨

■ACT通信をリニューアル

介護保険制度参画
20年の検証作業
チームの報告会



⑧

ここがすごい！
アビリティ共済動画、
みんなで作りました！



⑨

生活クラブ生協と
まちの縁がわ
フォーラムを開催



⑩

2021年度

■地域ACT

江戸川ACT・小平ACT設立

■まちの縁がわフォーラム 2年ぶりの開催…⑩

■公開講座・研修をオンラインで再開

■第5次中期計画策定

■SPSD（認知症模擬演技）研究会 PR動画作成…⑪

■在宅介護研究会動画作成…⑫

■会員ガイドブック改定

■事務所移転

SPSDのPR動画
「認知症の人に出会ったら
どう対応しますか？」



⑪

在宅介護研究会の
介護のコツをわかりやすく
伝える動画



⑫

2022年度

■ACT設立30周年

■地域ACT

豊島ACT設立

■たすけあいワーカーズのない地域も ACTつながるケアのサービスを開始

■会員証の発行…⑬

会員証



⑬



理事紹介

いまざわ こ
今澤てる子

NPO・ACT板橋
たすけあいワーカーズ
あやとり
2022年度就任



板橋たすけあいワーカーズあやとりの立ち上げから参加、現在もあやとりメンバーとして活動しています。その間に様々な活動にも携わりました。自身が病気を患ってケアを受けた経験もあります。

数年前から健康管理のため、運動と毎日玄米を中心とした食事に変更しています。いかに老後を迎えるかを意識した生活をするよう心がけています。最期まで自分で食事をし、自分でトイレに行くことが目標です。

わたべ まみ
渡部真実

東京・生活者ネットワーク
共同代表
2022年度就任



30年ほど前に産後ケアをお願いしたいとACT会員になりましたが、出産が早まり、ケアを受けることはなく、会員であることも忘れていた期間がありました。3月に町田市議会議員の任期を終え、ひとつ荷物はおろしましたが様々な活動は変わらず続いています。

今の楽しみは、コンポストに生ごみを埋めることです。猛暑はつらいですが生ごみの分解が早く、すっきりさわやかな気持ちになります。

ACTインフォメーション

ACT30 周年記念行事のお知らせ

2023年2月12日(日)午後、会場は武蔵野スイングホール レインボーサロンです(前号で11月とお知らせしましたが、日程が変更になりました)。

伊藤由理子さん(生活クラブ連合会)の講演と、パネルディスカッションなどを予定しています。

皆様のご協力とご寄付に御礼申し上げます

ACTコミュニティ活動応援基金 (9月末現在)
まちの縁がわ事業継続支援寄付
…………… 31件 165,000円
ACTへのご寄付…………… 2件 13,000円

編集後記

私の叔母は94才で一人暮らし、身の回りのことは何でも出来て、とてもおしゃれです。コロナの前は「縁がわ」の歌の会に参加。今の楽しみは毎月の定期健診の後、私とのランチ。いつも大好物のお寿司を食べてゆっくりおしゃべりをします。

先日は週1回来る看護師さんが、マニキュアをしてくれたと嬉しそうに見せてくれました。いつまでも元気でいてほしいと思います。

(K.Y)

住所、連絡先等変更されたときはACT事務局までお知らせください。

特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい
〒164-0012

東京都中野区本町2-51-10 OKビル4F

☎03-5302-0393 FAX 03-5302-0394

E-mail : tokyoact@maple.ocn.ne.jp <https://npoact.org/>

ACT通信ではユニバーサルデザイン(UD)フォントを主に使用しています。

「ユニバーサルデザイン(UD)フォント」は、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう、ユニバーサルデザインの視点から見やすさや読みやすさを配慮・確認し制作されたフォントです。



「Facebookで
「いいね!」してね」

